

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401764		
法人名	社会福祉法人 北串会		
事業所名	グループホームかをり		
所在地	長崎県雲仙市小浜町山畑3144		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号 HACビル内		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かをりは、自然が豊かで静かな場所にあり、一年中きれいな夕日を眺めることのできる風景があります。敷地内で家庭菜園を行っており、利用者の皆様とともに多種類の野菜を育てつつその成長を楽しみながら菜園の野菜を収穫し、また食しながら、季節を常に感じられる雰囲気づくりを行なっています。また同法人である北串保育園の園児達との定期的な交流があり、お互いの行事に月に1回は参加・訪問することで、高齢者の利用者と子ども達とが接する機会が多いことが魅力の一つです。近所の方や近隣の小中学生らとも行事等での訪問があり、地域との交流を深めています。さらに利用者には毎月2回、整体師による訪問マッサージを施術していただくサービスも提供しています。スタッフ全員が利用者・家族に丁寧に接しながら、利用者一人ひとりに応じた個別な介護を実施し、笑顔と笑い声のたえないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

橘湾を望む畑に囲まれた地域で、絶景を日々眺められる位置に事業所はある。地域に根ざした福祉を追求してグループホームを開設し、運営理念に「清浄心」「安心」「和合心」の仏教福祉を掲げている。職員のさりげない見守りは利用者には圧迫感が無く、利用者の自主性を優先した支援を行っている。居室はまさに利用者の生活感を感じる自宅となっている。自主訓練を含めた年6回の避難訓練は地域と連携し、利用者の命を守る意識の高さを示している。職員の定着も良く、働きやすい職場環境があり、それが利用者や家族との信頼関係を強くしている。職員を信頼している様子は、リビングに集う利用者の笑顔や笑い声やソファでうたたねの姿に繋がっている。法人の寺院の特徴も活かしながら、利用者が安心して落ち着くホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームかをり
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際、スタッフ皆で理念を読み上げ、理念の読み上げをおこ一日一日の実践に繋げている。	仏教の教えを基にした運営理念「清浄心・安心・和合心」があり、更に職員の思いをまとめた介護理念「目くばり・気くばり・心くばり」がある。毎日朝礼時に唱和しており、職員は利用者一人ひとりの支援に繋がるように具現化し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元行事には積極的に参加しており、地域の方に定期的に行事への参加を案内している。また日常的に気軽に近隣の方とも利用者・職員ともにすすんで会話する姿がみられる。自治会にも加入している。	自治会に加入し、回覧板が回ってきており事業所から地域の清掃に参加している。小学生の訪問があったり、保育園の餅つきや散歩の途中に保育園児がホームに立ち寄りなど月に1、2回行き来している。夕涼み会に地域の住民を招待する等、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と地域の方が知り合い・交流していることで、認知症の理解と支援へと繋がっているよう感じる。今後もさらに交流することで認知症を理解する機会も必要である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開けてないが、各委員との意見交換をおこない、他の職員も議事録等でその意見を共有することで、サービス向上に活かしている。	今年度は、規程のメンバーの参加で1回開催されている。会議では事業所からの報告や参加委員の情報交換が行われている。但し、日程調整の理由により規定回数の開催が行われていない。	開催できない要因は事業所側にあり、運営推進会議の意義を再確認することが望まれる。その上で会議の日程調整の際には職員配置も含め工夫し、開催に向けて努力される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回小浜町地域ケア会議に参加し、他の介護事業所や包括支援センターとの事例検討会を行っており、ときには当ホームの事例についても相談・意見交換していただいている。	管理者は雲仙市グループホーム連絡協議会の事務局を引き受けている。また、小浜町ケア会議に参加し、広域介護保険課に質問や相談を行い情報を得ている。管理者や職員は市主催の研修に参加するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず利用者の自由な行動を優先しながら見守っている。身体拘束について研修で学んだりミーティング等で話し合い、身体拘束をとらないケアを確認し合っている。	事業所は身体拘束マニュアルを作成している。職員は外部研修を受講し、報告会で他の職員とも内容を共有している。玄関を含め出入口は全て開錠しており、徘徊のリスクは工夫をして自由な出入りを優先している。言葉の拘束は職員で注意しあい拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際に利用者の健康チェックをすると共に、施設内での虐待等がないか確認している。また職員に虐待防止の研修会にも参加したり、研修内容を各自確認するようにしている。		

グループホームかをり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか理解できておらず、研修等に参加する必要がある。理解不足にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を細かく説明し、質問を受け答えし納得、安心してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には意見や要望を聴き、また、状況等を話す事で改善や運営の反映に繋げている。	毎月担当者が、家族に向けて利用者の様子を便りに記して郵送している。家族は面会時や電話など職員と会話する中で、要望や意見等を伝えている。敬老会では家族同士が話す場面も作っている。家族からは利用者のケアについての要望等があり、職員は検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い聴くようにし、反映できるようにしている。毎日の会話でも話しやすい環境に出きるよう努めている。	毎月ミーティングを開催している。また日々の申し送りなど職員の意見を表す場面がある。リーダーの職員が他の職員の思いを汲み上げる体制があり、回を重ねる毎に発言が増えている。業務振り返りシートの実施やレクリエーション内容の提案など積極的に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全員が満足しているとは限らない。やりがいに繋がっていない部分もあり、改善の必要性があると思われる。勤務体制については希望に応じて作成し、変更は各自考え行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加するようにし、記録をミーティングで報告し、知識を得て行くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一回の地域ケア会議に参加したり、地域の研修にも参加するようにしている。また、ミーティングには他の事業所の方に参加してもらい、指導してもらっている。交流は多くはないが今後は機会を多く持ちたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より、本人、御家族から要望や情報を聞き、スタッフ間でも話し合いの場を持ち、安心して過ごして貰えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、積極的な話し合いにて、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経過観察したうえで、現状を見極め話し合い、今後の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	片付けや掃除など、日常生活を一緒に行い、家庭的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、近況状況を伝えるようにし、家族の考え、ホームの考えを交換し、協力し合えるようにしている。一部の家族とは関係が築けていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ通ったり、知人の訪問受け入れなど、本人の習慣に合わせ、それまでの関係が途切れないように努めている。	利用開始時のアセスメントで本人や家族から生活歴を聞き取り、その後に知り得た情報は介護計画に加筆し馴染みの支援に取り入れている。友人や家族の訪問があり、馴染みの場所や美容室など外出支援も行っている。家族との外出や外泊の他、イベントに家族を招き楽しめるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、様子を観察し、孤立、対立しないように調整、援助している。レクリエーションや作業を一緒に行い、関わり合いを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にも、本人の様子を伺いに行ったり、必要に応じて相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族にも希望を聞くようにし、意向の把握に努めておる。そして、本人本位に検討するよう努めている。	職員は毎朝の着替えの時や日常会話などで利用者の思いを把握するように努めている。日中の活動は無理強いせず本人の思いを優先している。難聴の利用者にはゆっくり聞く時間を取って選択してもらっている。但し、職員の知り得た情報の共有の取り組みが必要である。	フェイスシートを有効活用し、利用者の思いや意向に関して職員の支援を深める工夫を検討し、実践に繋げることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、御家族に伺い、また、普段の会話からも聞きだし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフも一人一人が、様子観察し、記録や申し送りで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様子観察したうえで、家族とも話し合い、ミーティングで担当職員を中心に意見を出し合い、作成している。	短期・長期の介護目標を作成している。毎月カンファレンスを行い、3ヶ月毎にモニタリングしている。家族には毎月の便りで計画の見直し時期を連絡し、面会時や電話で要望を聞いており、支援開始前に説明し同意を得ている。職員は計画を基に支援しており記録を取り評価に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成しており、細かな変化などについては特記事項を設け記録している。職員間で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、御家族の要望をできるだけ取り入れるよう、取り組んでいる。本当に必要な支援を計画にあげるようにしている。		

グループホームかをり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学生や保育園児との交流や、行事参加で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望をかかりつけ医にしてもらうようにし、往診受診で事業所とも関係を築きながら、適切に医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医は家族の意向に沿って決定し、職員が受診支援しており、遠方の病院や重要な検査などの時は家族の協力を得ている。受診内容は受診記録ノートに記入し職員で共有している。往診の連携があり、緊急時のマニュアルも作成しており職員は周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の看護師へ報告、相談し利用者の健康チェックから、指導、指示を受け、受診等行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、面会も行うようにし、情報交換や相談を病院関係者で行い、早期退院に向け、関係作りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明はしており、適宜、御家族の希望も確認するようにし、取り組むようにしている。	重度化や看取りの指針があり、契約時に家族へ説明し同意書を貰っている。また利用者の状況によって医師や家族との話し合いの場を持ち検討している。看取りについての対応マニュアルを作成し、職員は看取り支援について学んでいる。これまでに医療連携のもとでの看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員より訓練は受けたが、繰り返しの訓練が必要と思える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力体制は築いてはいるが、更に訓練や対策法を繰り返し身につける必要があると思われる。	年2回、昼夜設定で消防署立会いの避難訓練の他、自主訓練を4回行っている。更に消防分団や近隣の住民が利用者の避難誘導を手伝うなど協力関係が出来ている。又、自然災害時に備え懐中電灯や食料など備蓄している。スプリンクラーや自動火災報知機、火災報知設備も設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重し、親しみやすい方言を使いつつ、人格を損なわないよう注意している。個人情報を持ち出さないようにしている。	職員は尊厳について研修やミーティング時に学習し、言葉掛けや態度など注意し、排泄誘導や入浴時はプライバシーに配慮するなど日々の支援に繋げている。職員は守秘義務の誓約書を提出し、個人情報の保管場所は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に思いを、希望を訴える事ができるように関係を築けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣ごとや行事に関して、本人の気分や体調や希望に合わせて優先順位を変えながら支援している。習慣になっている日々の手伝いなどもあるが、その日の本人の意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の好みを聞き支援している。理容、美容は本人の馴染みの所を優先している。朝の洗面には整髪を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力を生かしながら、調理補助や片付けを一緒に行っている。	献立は、その日の材料や利用者の希望を聞き、好みや形状などに配慮して職員が調理している。おやつやいなり寿司作りや菜園で収穫した大根の漬物作りなどは利用者と一緒に作業している。誕生日には赤飯やケーキで祝い、行事食、外食など楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、身体の状態に合わせた食事を準備し、摂取しやすく必要量確保できるようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し行ってもらっている。夕食後には義歯をはずしてもらい義歯洗浄剤などで洗浄してもらっている。		

グループホームかをり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄の記録を行ない、パターンを把握して、必要時に声かけ、誘導を行なっている。失敗を少しずつ減らし、徐々にトイレでの排泄を自立できるように支援している。	トイレでの座位排泄の支援を行っている。職員が排泄を記録し、各利用者の排泄パターンを把握することで、排泄の意思表示のもと支援している。職員は適切なパッドの大きさを検討するなどの支援を行った結果、失禁が軽減したり、布パンツ利用に繋がるなど改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物を工夫し、その人に合った食事を考え提供し、運動の働き掛けもしている。1日1,200ccの水分摂取を目標とし、自然排便への取り組みをしている。またかかりつけ医にも相談し服薬調整もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めており、本人の希望に添えていない現状ではあるが、入浴を楽しんでもらえるよう、声かけしながら、入浴介助している。また出来るところは自分で洗ってもらっている。	入浴介助は職員が1対1で対応している。利用者の状況に応じ、2人介助や同性介助を行っており、入浴拒否時は強制せず対応している。季節の湯や入浴介助時の会話など、利用者が楽しめるよう工夫している。ただし、入浴日が週3回と決まっており、利用者の希望に沿えないことがある。	入浴準備が毎日できる体制づくりを検討し、一日の入浴人数を工夫するなど利用者の希望を反映できる工夫を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ運動や作業、レクリエーションをしてもらうように促して、夜間の安眠に繋げている。また一人ひとりの体調や表情をみて、居室やソファで休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬管理表を作成し、薬の管理の際にも必ず薬品名・用量・作用を記入し、注意深く取り扱い、職員全体が薬について把握するよう努めているが理解が不足している面もある。また服薬の変化があった際は必ず申し送りし記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にあわせて、お手伝いなどの役割を持ってもらい、毎日の生活習慣としてもらっている。またときには気分転換に行事を行ったり、ドライブで楽しめるよう支援を行っているが、利用者全体までは行きわたらないこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物等を希望されただけ支援し外出を支援している。しかし希望に添えない日もあるので、日を改めていくこともある。行事を活かして希望の場所に行くこともある。	天候や利用者の体調に合わせて、ホーム周辺の散歩や庭での外気浴を行っている。畑や花壇の手入れを日課に自由に戸外に出ている。職員と墓参りや買い物、ドライブなど個別に出かけている利用者もいる。ピクニックや花見に出かけたり、寺の法要に向くなど外出を楽しむよう支援している。	

グループホームかをり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える人は、買い物などでもご自分で支払をされている。また本人とご家族の希望がある場合は、手元にお金を管理されている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は援助し書かれている方もおられる。また本人が希望されたら、相手の方に電話で会話して貰えるように支援している。また毎月1回職員が手紙と写真で状況を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルームは南西側で常に明るく、季節の花や野菜などを周辺に植え、室内にも季節物を飾るなどして季節感も感じられる空間になっており、居心地の良い空間づくりに努めている。	リビングには穏やかな日差しが差し込み明るく、季節の飾り付けや利用者の作品を掲示して、楽しい雰囲気になるよう努めている。ソファなど調度類の配置もゆとりがあり、利用者が活動しやすいよう工夫している。加湿器の設置や換気の調整を職員が行い、健康管理に配慮している。ただし、玄関等のセンサー音が落ち着きを欠いている。	玄関等のセンサー設置の必要性や時間帯による設置方法など、様々な角度からの再検討を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者の配置を考え、ソファや椅子に座り、それぞれテレビを見たい人、ゆっくりしたい人、作業をしたい人と、気分に応じて居られる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを置いてもらい、居心地の良い居室作りに努めている。希望や必要に応じて畳を入れたりして個々に合わせ、また居室には家族との写真を中心に飾っている。	利用者の馴染みの物は自由に持ち込むことができる。畳を利用したり、ベッドの利用も本人の意思に沿っている。筆筒や仏壇、写真などの飾り付けなど、各利用者の生活感を意識し支援している。掃除は職員が行い、居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりや目印になるものを設置、掲示してあり、自立支援に向けてそれぞれの安全に生活できるようにしている。出来るだけ安全に行動できるように物の配置を考え、不要な障害物は置かないようにしている。		